

有機畜産に関する検討会（第2回）の概要

1 日時 平成13年9月27日（木）14：00～17：00

2 場所 虎ノ門パストラル

3 議事概要

事務局より、「諸外国の有機畜産等の状況」、「我が国における有機畜産等の状況」、「有機農産物等の検査認証制度について」等の配付資料に基づき説明を行った後、自由討議を行ったところ、次のような意見が出された。

- ・ 海外の有機畜産物に我が国の市場が占められてしまうことがないよう、南北に広く広がる我が国の気候条件に合致した有機畜産に関する規則とする必要があるのではないか。
- ・ 現実問題として有機穀物飼料は輸入に依存せざるを得ないので、輸送を含む飼料費の低コスト化に向け努力している。
- ・ 輸入有機飼料については、それが有機飼料であるということを確認できる仕組みが必要なのではないか。
- ・ 世界的にみると、有機のキーワードは、健康・美味しい等から環境保護に変わってきているのではないか。
- ・ 有機であることを確保するための流通・加工段階における分別管理の課題も含めて、有機畜産がどうあるべきかを検討する必要があるのではないか。
- ・ 有機生産に対する取組は、農家がどのように生活していくかという問題であり、収入面などで資本主義経済にはそぐわない形態であるかもしれないが、それも農家の選択の一つではないか。
- ・ コーデックスガイドラインでは、地域産の飼料の給与について規定されていないが、欧米では有機農業は基本的に地域内の生産物の利用が前提となっいることから、土地と結びついた活動という観点からは、ある程度の国産有機飼料の確保も必要ではないか。
- ・ 有機米の生産に伴い、有機稲わらも生産されている。これを確保し、牛に給与するための仕組みが必要ではないか。